

# 編集後記

今月号から新連載が始まります。

国吉先生の「幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―」は十二回、シリーズ「いま、子どもたちは」の初回は山崖先生に三回書いていただきます。宮里先生、小宮山先生の新企画も始まります。どうぞご期待ください。

\*

新聞で、大人の都合で滑り台がいくつかの公園を転々とした、という記事を読みました。その都合とは、「子どもの声がうるさい」というものでした。

それは子どもの喜びそう少し風変わりな滑り台でした。新しい滑り台を珍しがってたくさんの子どもが

やって来て、公園のまわりには一日中歓声が絶えません。その様子は「幼稚園が丸々ひとつやってきたほど」と書かれています。住民の多くは子育てで経験のある年配者だといいます。話し合いを重ね、今の場所に決まりました。「大きな道路が近くを走り、子どもの歓声は車の騒音に消される」。

子どもの声とは、それほどうるさいものなのでしょうか。

そんなとき、同じ新聞のコラム欄にふと目が止まりました。へ霜や氷のきびしい日の子供の声はにぎやかで活気があった。大人はそうした声に励まされて寒さとむき合い立ち働いていたのかもしれない。

引用されていた馬場あき子さんのこの文章に、ほっとする思いがしました。

(A)

## 幼児の教育

第九十九巻 第四号

(二〇〇〇年四月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十二年四月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8600 東京都文京区大塚二-1-1

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620 東京都港区三田五-1-1

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込

六-1-41-9

〒03-3153-9516-61-3 (営業)

〒03-3153-9516-61-4 (編集)

振替 〇〇-19-01-19640

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所「フレーベル館」にお願いします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。